

# 決算評価報告書

評 価 期 間

2016年02月 ~ 2021年01月

株式会社サンプル  
代表取締役 サンプル

# 信用リスク分析表

[千円] P. 1  
2021年01月期 現在

株式会社サンプル

信用評価 **4**

要注意

評価	配点	得点
定量評価	129	53
定性評価	71	61
合計	200	114

判定	評価	スコア	ポイント一覧	詳細
適正	1	180 以上	リスクなし	安全性は最高水準で、財務内容も極めて優れていると判断される企業。融資先としてのリスクは最小限で、債務償還能力は最も良い。
	2	160 以上	ほとんどリスクなし	かなり優れていると判断される企業。返済の確実性は極めて高く、業況にも懸念がない。ただし、信用評価1より安全性はやや劣る。
	3	140 以上	リスク些少	貸出先としてはかなり魅力的で安定性も高い。元利払が滞る可能性は低い。が、長期的に見ると安定性が低下する可能性がある。
要注意	4	100 以上	リスクはあるが良好水準	現時点での融資元金払の確実性は高いが、将来的には返済の確実性が低下するか、信用状況に懸念が生じる可能性がある。
	5	80 以上	リスクはあるが平均的水準	当面の返済能力には不安がないが、信用評価4以上に環境の変化などにより将来において安全性が低下する恐れがある。
	6	50 以上	リスクはやや高いが許容範囲	当面の返済能力にはそれほど不安ではないが、長期的に安全性を維持できるという確実性は低い。
危険	7	40 以上	リスク高く徹底管理	すぐに債務不履行に陥るわけではないが、現時点ですでに返済の確実性が低く、安全性に欠ける。将来的にも安全性には懸念がある。
	8	30 以上	警戒先	すでに債務不履行にあるか、あるいは重大な危険性が認められる。企業内容はかなり悪化しており、経営が行き詰まる可能性が高い。
	9	20 以上	延滞先	債務不履行中でかつ解消のめどが立たない。貸出金の回収に重大な懸念が生じており、損失の発生が見込まれる。回収の難しい先。
	10	20 未満	事故先	不良債権化し、貸出金回収の見込みもなく、償却を要する。

定量評価		結果値	単位	配点	得点	5	10	15	20
安全性	自己資本比率	64.62	%	10	10	[Progress bar]			
	ギアリング比率	31.67	%	10	10	[Progress bar]			
	流動比率	670.01	%	7	7	[Progress bar]			
	経営安全率	4.03	%	7	1	[Progress bar]			
収益性	売上高経常利益率	3.46	%	5	4	[Progress bar]			
	総資本経常利益率	1.73	%	5	3	[Progress bar]			
	収益フロー	13	期連続黒字	5	5	[Progress bar]			
成長性	売上高増加率	-3.41	%	5	0	[Progress bar]			
	経常利益増加率	-60.24	%	5	0	[Progress bar]			
	自己資本額	634,848	千円	15	10	[Progress bar]			
返済能力	債務償還年数	23.76	年以内	20	1	[Progress bar]			
	インレスト・カレヅジ・レソ	-4.42	倍	15	0	[Progress bar]			
	キャッシュフロー額	8,464	千円	20	2	[Progress bar]			
合計				129	53				

## 【定量評価計算式】

- 自己資本比率  

$$\frac{\text{自己資本}[634,848]}{\text{総資本}[982,472]} \times 100$$
- ギアリング比率  

$$\frac{\text{借入金・社債}[201,079]}{\text{自己資本}[634,848]} \times 100$$
- 流動比率  

$$\frac{\text{流動資産}[647,964]}{\text{流動負債}[96,709]} \times 100$$
- 経営安全率  

$$\frac{\text{売上高}[455,176]}{\text{一損益分岐点売上高}[436,843]} \times 100$$
- 売上高経常利益率  

$$\frac{\text{経常利益}[15,764]}{\text{売上高}[455,176]} \times 100$$
- 総資本経常利益率  

$$\frac{\text{経常利益}[15,764]}{\text{平均総資本}[912,461]} \times 100$$
- 売上高増加率  

$$\frac{\text{売上高}[455,176] - \text{前期売上高}[471,269]}{\text{前期売上高}[471,269]} \times 100$$
- 経常利益増加率  

$$\frac{\text{経常利益}[15,764] - \text{前期経常利益}[39,648]}{\text{前期経常利益}[39,648]} \times 100$$
- 債務償還年数  

$$\frac{\text{借入金・社債}[201,079]}{\text{営業利益}[-6,266] + \text{減価償却費}[14,730]}$$
- インレスト・カレヅジ・レソ  

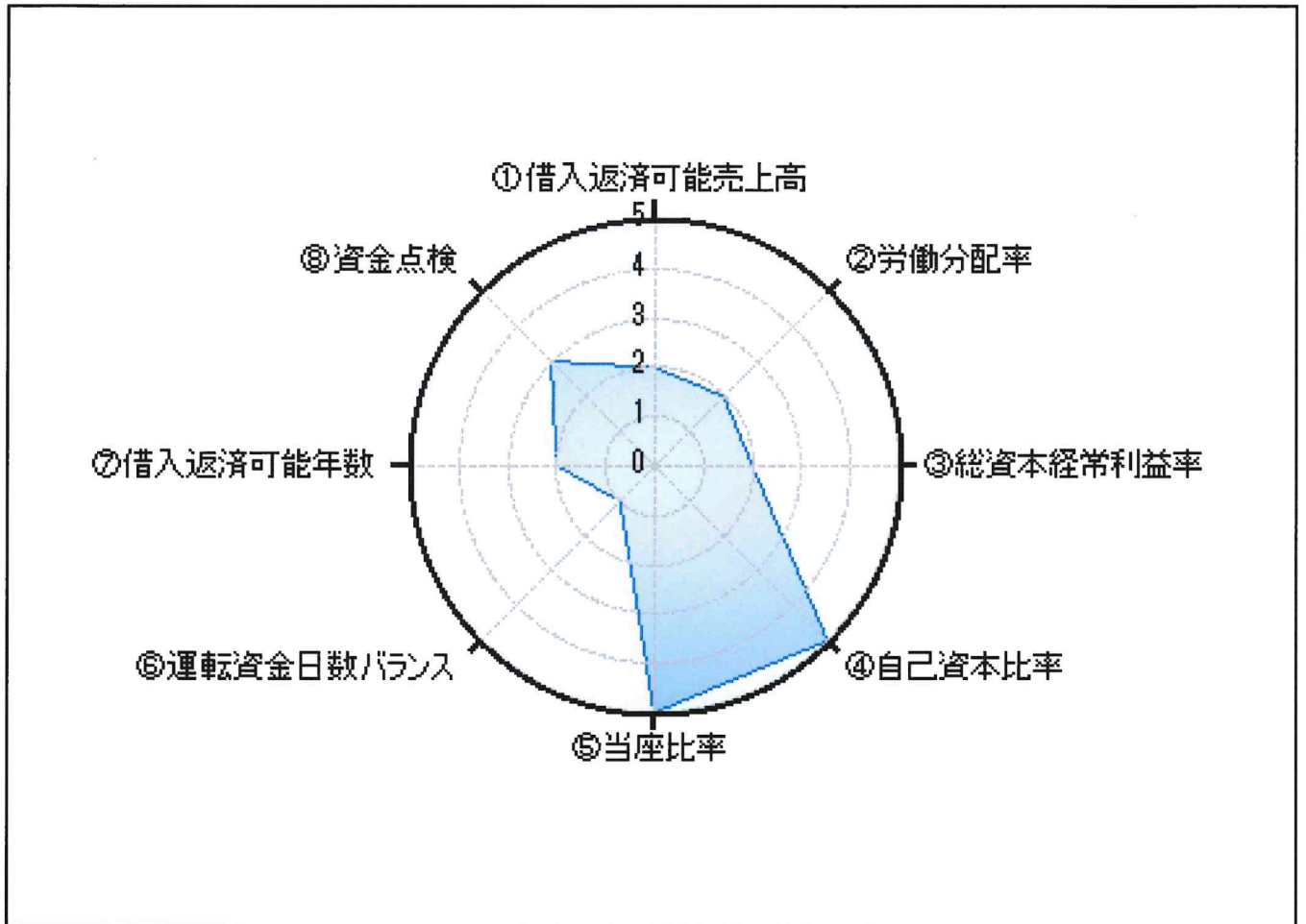
$$\frac{\text{営業利益}[-6,266] + \text{受取利息・配当金}[1,162]}{\text{支払利息・手形売却損}[1,155]}$$
- キャッシュフロー額  

$$\text{営業利益}[-6,266] + \text{減価償却費}[14,730]$$

定性評価	状態	配点	得点	5	10
業暦	51年	5	5	[Progress bar]	
市場動向	成熟期	10	9	[Progress bar]	
景気感応度	高い	3	0	[Progress bar]	
市場規模	1兆円以上	4	4	[Progress bar]	
競合状態	競合穏やか	7	5	[Progress bar]	
経営者・経営状態	優良	10	10	[Progress bar]	
株主	非上場・安定	5	1	[Progress bar]	
従業員のモラル	問題なし	3	3	[Progress bar]	
営業基盤	極めて強固	10	10	[Progress bar]	
競争力	非常に高い	7	7	[Progress bar]	
シェア	非常に高い	7	7	[Progress bar]	
合計		71	61		

# 決算評価レポート

株式会社サンプル




安全性においての各項目で高評価の比率である。収益性に関してもコロナ禍でありながら、売上高経常利益率をはじめとして高い評価を得ている。返済能力及び成長性に関しては、緊急融資に伴う借入残高の増加による借入金対月商倍率及び債務償還年数、インタレスト・カバレッジ・レシオの対前年比からの評価減は原因がはっきりしており総合評価には大きく影響ないものである。業種柄在庫に関してはある程度の確保は必要であり、適性の範囲内と考えます。資金面含め、今年も総合的判断のもと顕著に推移しているものと思われます。

# 財務リスク分析表 [ I ]

[千円] P. 1  
2021年01月期 現在

株式会社サンプル


## 【借入返済可能売上高】 ⇒ 生き残りのための最低売上高

	売上高	借入返済可能売上高	差
		455,176	506,926
$\blacksquare$ 借入返済可能売上高 = [固定費合計 + {借入金返済額 ÷ (100% - 実効税率)}] ÷ 限界利益率 506,926                      282,597                      28,560                      37.00%                      64.69%			
【参考】償却額加味後売上高 470,783			

[判定]分析値 = 売上高 ÷ 借入返済可能売上高 × 100


ランク1(分析値が 80.00%未満)      ランク2(分析値が 80.00%以上)      ランク3(分析値が 90.00%以上)  
 ランク4(分析値が 100.00%以上)      ランク5(分析値が 120.00%以上)

## 【労働分配率】 ⇒ 労働生産性 (低いほうが効率が良い)

	分析値	基準指標	差
		62.28%	44.56%
$\blacksquare$ 分析値 = 人件費・労務費 ÷ 限界利益 62.28%                      183,376                      294,457			

[判定]ランク1(分析値が 70.00%超)      ランク2(分析値が 70.00%以下)      ランク3(分析値が 60.00%以下)  
 ランク4(分析値が 50.00%以下)      ランク5(分析値が 40.00%以下)

## 【総資本経常利益率】 ⇒ 経営効率 (社長の勲章)

	分析値	基準指標	差
		1.73%	3.65%
$\blacksquare$ 分析値 = 総資本回転率 × 売上高経常利益率 1.73%                      0.50回転                      3.46%			
総資本回転率	0.50回転	売上高経常利益率	3.46%
$\blacksquare$ 総資本回転率 = 売上高 ÷ 平均総資本 0.50回転                      455,176                      912,461		$\blacksquare$ 売上高経常利益率 = 経常利益 ÷ 売上高 3.46%                      15,764                      455,176	


[判定]ランク1(経常利益がマイナス)      ランク2(分析値が 3.00%未満)      ランク3(分析値が 3.00%以上)  
 ランク4(分析値が 5.00%以上)      ランク5(分析値が 10.00%以上)

## 【自己資本比率】 ⇒ 根本的な安全性 (足腰)

	分析値	基準指標	差
		64.62%	37.80%
$\blacksquare$ 分析値 = 自己資本 ÷ 総資本 64.62%                      634,848                      982,472			

[判定]ランク1(純資産がマイナス)      ランク2(純資産が0以上かつ利益剰余金がマイナス)      ランク3(分析値が 30.00%未満)  
 ランク4(分析値が 30.00%以上)      ランク5(分析値が 50.00%以上)

## 【当座比率】 ⇒ 当面の安全性 (腕力)

	分析値	基準指標	差
		504.06%	113.05%
$\blacksquare$ 分析値 = 当座資産 ÷ 流動負債 504.06%                      487,469                      96,709			

[判定]ランク1(分析値が 50.00%未満)      ランク2(分析値が 50.00%以上)      ランク3(分析値が 90.00%以上)  
 ランク4(分析値が 100.00%以上)      ランク5(分析値が 150.00%以上)

※『基準指標』は、財務評価基準「製造業：総平均」を使用しています。  
 (中小企業庁「中小企業実態基本調査報告書」より)


# 財務リスク分析：資金点検

[千円] P. 8  
2021年01月期 現在

株式会社サンプル

(1) 資金の源泉 30,615

税引前当期利益	償却額計	引当金等の増加額
15,764	14,730	121

 平均的水準です。「ポイント」も参考にしてみてください。

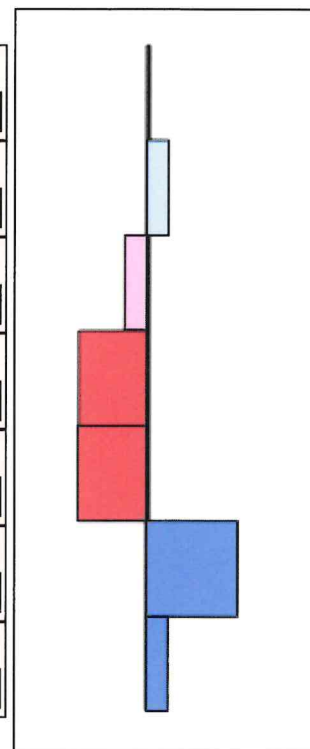
(2) 返済余力A -29,735

営業キャッシュフロー	借入金返済額
-1,175	28,560

(3) 返済余力B -127,080

フリーキャッシュフロー	借入金返済額
-98,520	28,560

営業キャッシュフロー	-1,175
利益及び利益調整	30,615
運転資金増減	-31,790
投資キャッシュフロー	-97,345
フリーキャッシュフロー	-98,520
財務キャッシュフロー	128,972
当座資金増減	30,452



【参考】

資金の増減要因(主要5勘定の増減) -56,577

仕入債務増	借入金等増	)
( 4,672	+ 52,472	
売上債権増	棚卸資産増	)
- ( 13,349	+ 4,547	
	固定資産等増 (償却費を加味)	
	+ 95,825	

★チェックポイント

1. 資金の源泉

企業が生み出した根本的なキャッシュフローの元となる「資金源泉」を把握します。資金源泉は、「税引前当期利益」に資金流出がない「減価償却費」と「退職給与等の引当金増加額」を加えた金額となります。この資金源泉のマイナスが続くと経営は必ず成り立たなくなります。

2. 返済余力

営業キャッシュフローで約定どおりの借入返済が可能かどうかを把握します。営業キャッシュフローが借入金返済額を上回っていれば改めて銀行交渉する必要はなく堂々と経営ができます。

★改善ポイント

1. 営業キャッシュフローの改善

- ・利益の増大
- ・運転資金日数バランス（CCC）の適正化
- ・棚卸資産の削減

2. その他の改善

- ・固定資産の売却や投資の見直しによるフリーキャッシュフローの改善
- ・借り換え等返済期間の見直しによる返済額の適正化